

取扱説明書

スマートフォンリンク アプリケーションコントロールメインユニット

SPH-DA99



お買い上げいただきありがとうございます

- ▶ ご使用前に必ず本書をよくお読みいただき、記載された内容にしたがって正しくお使いください。
- ▶ 本書は紛失しないよう車の中に保管してください。
- ▶ 本機のより詳しい取扱・操作方法については、ユーザーズガイドで確認できます。ユーザーズガイドは、当社ホームページ < <http://pioneer.jp/> > の「お客様サポート」→「取扱説明書ダウンロード」から PDF 形式で閲覧・ダウンロードできます。
 - ※ PDF ファイルを閲覧するには、最新版の Adobe Reader が必要です。
 - ※ ユーザーズガイドは、WEB でのみの対応とさせていただきます。




安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。


 警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
 注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。


■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 注意 (警告を含む) しなければならない内容です。	 必ず行っていただく強制の内容です。
 禁止 (やってはいけないこと) の内容です。	

MN-001-002

接続・取り付け

 **警告**

 禁止


本機は、DC12V \oplus アース車専用です。24V車で使用しないでください。火災や故障の原因となります。


エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない
エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。エアバッグが誤動作し、死亡事故の原因となります。

前方視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には絶対に取り付けない
交通事故やケガの原因となります。


電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない
電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

取り付けには保安部品 (ステアリング、ブレーキ、タンクなど) のボルトやナットは絶対に使用しない
これらを使用すると、制動不能や発火、交通事故の原因となります。

 **警告**

 禁止

アンテナは、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない
視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。

 強制

取付・配線、取付場所の変更は、安全のため必ず販売店に依頼する
取付・配線や取り外しには、専門技術と経験が必要です。誤った取り付けや配線、取り外しをした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。また、お客様ご自身による取付・配線は、ケガの原因となります。

作業前はバッテリーの \ominus 端子を外す
 \oplus と \ominus 経路のショートにより、感電やケガの原因となります。

作業前に、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する
車体に穴を開けて取り付けの場合は、パイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないように注意してください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を行ってください。

警告



強制

必ず付属の部品を使用し、確実に固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れて運転の妨げとなり、事故やケガの原因となります。

説明書に従って接続・取り付けする
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないよう配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コード類は運転操作の妨げとならないように固定する

ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故の原因となります。

取り付けと配線が終わったら、電装品が元通り正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は、乳幼児の手の届かないところに保管する

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意



禁止

直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない

内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

アンテナやモニターを不安定なところに取り付けない

落下などの原因となることがあります。

通風口や放熱板をふさがない

内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

コード類は絶対に途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。

注意



禁止

コード類の配線は、車体の高温部に接触させない

火災や感電の原因となることがあります。

製品同梱の電源リード線は、バッテリーに直接接続しない

火災や感電の原因となることがあります。電流が不足して、バッテリーから直接電源を取る場合は、専用の配線キットを使用してください。

分岐配線をしな

い ケーブルが加熱して、火災・感電の原因となることがあります。

雨が吹き込む所や水や結露、ほこり、油煙などが混入するところには取り付けない

発煙や発火、故障の原因となることがあります。

コードが金属部に触れないように配線する

金属部に接触するとコードが破損して、火災や感電、故障の原因となることがあります。

アンテナやカメラは車幅や車の前後からはみ出さない場所に取り付ける
歩行者などに接触して、思わぬ事故の原因となることがあります。

アンテナコード等を車内に引き込む際は、雨水の浸入に注意する

雨水が車内に浸入すると、火災や感電の原因となることがあります。

使用方法

警告



禁止

運転者は走行中に操作をしない

前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。

運転者は運転中に画像を注視しない
前方不注意となり交通事故の原因となります。

速度を上げての後退運転や画面だけを見ながらの後退運転はしない

バックカメラの映像は広角レンズを使用しています。実際の距離と感覚が異なるので、人や物にぶつかる恐れがあります。また、必ず目視による安全確認を行いながら後退してください。カメラの死角になっている人や物にぶつかる恐れがあり、思わぬ事故の原因となります。

警告



禁止

メディア挿入口に手や指、異物を入れない

ケガや感電、火災や故障の原因となります。

液体で濡らさない

発煙・発火・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、アンテナコードや本機に触れない

落雷による感電の危険性があります。



分解禁止

分解や改造をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。



強制

実際の交通規制に従って走行する
ナビゲーションによるルート案内のみに従って走行すると、実際の交通規制に反する場合があります、交通事故の原因となります。

運転者がテレビやビデオを見るときは、必ず停車してパーキングブレーキをかける

テレビやビデオは、安全のため走行中は表示されません。

ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア)のヒューズを使用する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

注意



禁止

本機は車載用以外で使用しない
発煙や発火、感電やケガの原因となることがあります。

アンプの放熱部に手を触れない

やけどの原因となることがあります。



強制

音量は、車外の音が聞こえる程度で使用する

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となることがあります。

注意



指のケガに

注意

モニターの収納や角度調整時に手や指を挟まれないように注意する

ケガの原因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



強制

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口にご相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

目次

お使いになる前に

ご使用前に知っておいていただきたいこと.....	6
テレビを見るための準備をしよう.....	7
B-CASカードを取り外すときは.....	8

基本操作

本機の基本操作を覚えよう.....	9
各部の名称とおもな動き.....	9
基本的な操作のしかた.....	11
HOMEメニューを表示させる.....	12
ディスクの入れかた・取り出しかた.....	15
モニターの角度を調整する.....	16
モニターの画質を調整する.....	16
アプリケーションの使いかたを覚えよう.....	17
iPhoneをお使いの場合.....	17
Androidをお使いの場合.....	18
アプリケーションを使う.....	18

オーディオ

音楽や映像を楽しもう.....	21
基本的なAVソースの操作.....	21
AVソースをOFFにする.....	22

ハンズフリー

ハンズフリー通話を試みよう.....	23
iPhone/Androidを登録する.....	23
ハンズフリー通話をする.....	24
ハンズフリー通話をする.....	24
Siriアイズフリー（音声認識）機能を 使う（iPhone専用）.....	25

困ったときは

故障かな？と思ったら.....	26
共通項目.....	26
アプリケーション.....	27
オーディオ共通項目.....	27
FM/AM.....	28
DVD.....	28
CD、ROM（WMA/MP3/AAC）.....	29
テレビ.....	30
iPod.....	31
エラーメッセージと対処方法.....	32
共通項目.....	32
アプリケーション.....	32
テレビ.....	32

付録

取り扱い上のご注意.....	33
液晶画面の正しい使いかた.....	33
ディスクの正しい使いかた.....	33
B-CASカードの正しい使いかた.....	34
iPodに関するご注意.....	35
電波に関するご注意.....	35
保証書とアフターサービス.....	36
保証書.....	36
保証期間.....	36
修理について.....	36
補修用性能部品の最低保有期間.....	36
ご質問、ご相談は.....	36
仕様.....	37
商標・著作権など.....	38

ご使用前に知っておいていただきたいこと

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。



- 環境保護のため、必要以上の停車中のアイドリングは避けましょう。

バッテリーを外すときのご注意

点検などでバッテリーを外すと、次の内容が工場出荷時の設定に戻ります。必要な情報は事前に控えておいてください。

- 画質調整
- 画面角度調整
- オーディオ設定の内容
- ラジオ、交通情報のプリセット内容
- 各AVソースの再生モード

など

液晶画面について

液晶画面は、その構造上きれいに見える角度が限られています。初めてお使いになるときは、画面がきれいに見えるように見る角度を調整し、調整した角度に合わせて色の濃さを調整してください。(→P16) 液晶画面自体の明るさや色温度なども変更できます。お好みに応じて調整してください。

本機と接続可能なiPhone/スマートフォンについて

ドコモ スマートフォン (Android)、iPhone (ソフトバンク、au) に対応しています。対応機種について詳しくは、弊社ホームページでご確認ください。

(<http://pioneer.jp/carrozzeria/support/splink/>)

著作権

本製品に収録されたデータ及びプログラムの著作権は、弊社及び弊社に対し著作権に基づく権利を許諾した第三者に帰属しております。お客様は、いかなる形式においてもこれらのデータ及びプログラムの全部または一部を複製、改変、解析などすることはできません。

お客様登録のお願い

製品に関する情報をお知らせするために、お客様登録をお願いします。登録は弊社ホームページにて可能です。以下のURLにアクセスして登録を行ってください。

<http://pioneer.jp/support/members/>

なお、登録時に保証書に記載されている内容が必要になりますので、保証書をお手元にご用意ください。

お客様が保存されたデータについて

本機に登録された各種設定などの内容は、事故や故障・修理・その他取り扱いによって変化・消失する場合があります。大切な内容は控えをお取りください。万一内容が変化・消失した場合の損害および逸失利益につきましては、一切の責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービス

- 弊社からの本製品の安全に関する重要なお知らせは、インターネットからご登録いただいたお客様にいたしますので、必ず登録をさせていただきますようお願いいたします。
- 本製品のアフターサービスは、お買い上げ販売店を窓口として実施しておりますが、移動先や引越などにより、お買い上げ販売店に修理が依頼できない場合には、修理受付窓口へご相談ください。

オートアンテナ車のご注意

本機をオートアンテナ車 (モーターアンテナ車) に取り付けた場合、Bluetooth接続されたiPhoneやスマートフォンの発着信時およびAVソースやアプリのONに連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。

その他

- 弊社は、本製品がお客様の特定目的へ合致することを保証するものではありません。
- 本製品の仕様及び外観は、改善のため予告なく変更する場合があります。その場合における変更前の本製品の改造、またはお取り換えのご要望には応じかねます。
- 説明書で使っている画面例は、実際の画面と異なる場合があります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。

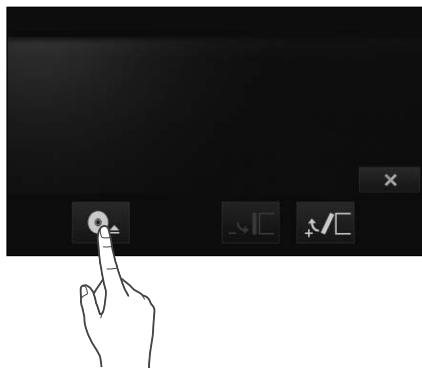
テレビを見るための準備をしよう

本機をご購入後はじめてテレビを見る時は、B-CASカードの挿入と、チャンネルスキャン（受信可能なチャンネルを探して本機に登録する作業）が必要です。



- チャンネルスキャンは、テレビの電波を受信しやすい場所で行ってください。（地下駐車場などでは電波を受信しない場合があります。）
- 車のバッテリーを外したときや、設定初期化したときにもチャンネルスキャンが必要です。

1 電源ボタンを押し、モニターにタッチする



▼
モニターが開きます。

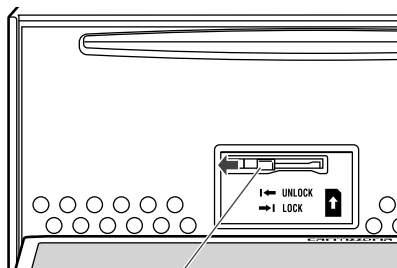


- モニターの開閉を手動または工具を使って無理に行わないでください。モニターに強い力が加わると故障することがあります。
- モニターの開閉をするときに、物を挟まないようにご注意ください。物が挟まってしまったときは、挟まった物を取り除いてから開閉してください。
- モニターを開閉するときは、指などを挟まれないようにご注意ください。特にお子様にはご注意ください。ケガの原因となることがあります。



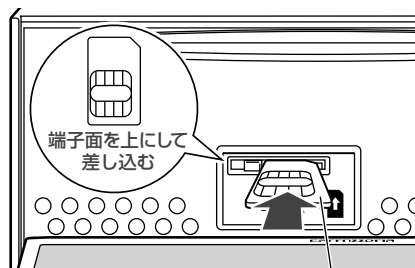
指のケガに
注意

2 LOCKレバーをUNLOCK位置までスライドする



LOCKレバー

3 “カチッ” と音がするまでB-CASカードを差し込む



B-CASカード

4 LOCKレバーをLOCK位置までスライドする

5 ▲ボタンを押す

モニターが閉じます。



- モニターが閉じない場合は、B-CASカードLOCKレバーがLOCK位置になっていない可能性があります。LOCKレバーの位置をご確認ください。LOCKレバーの位置が正しくないまま ▲ ボタンを押したときは、メッセージと警告音でお知らせします。
- B-CASカードが挿入されていない状態では、地上デジタルテレビ放送を視聴することはできません。
- B-CASカードは常時、本機に挿入した状態でご使用ください。

6 𠂆 ボタンを押し、DTVにタッチする



7 画面にタッチし、𠂆にタッチする



8 スキャンに長くタッチする



チャンネルスキャンが終了すると、テレビ画面が表示されます。

B-CASカードを取り外すときは

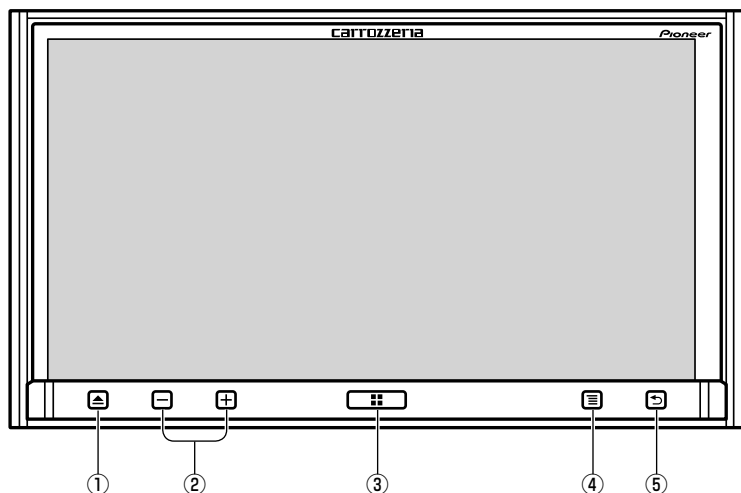
何らかの理由によりB-CASカードを本機から取り外すときは、モニターを開いてLOCKレバーをUNLOCKの位置までスライドし、“カチッ”と音がするまでB-CASカードを押し込んで離してください。B-CASカードが押し出されますので、まっすぐ引き抜いてください。B-CASカードを取り出したあとは、必ずLOCKレバーをLOCK位置までスライドしてください。B-CASカードが挿入されていない状態でも、LOCKレバーをLOCK位置にしないとモニターを閉じることができません（LOCKレバーの位置が正しくないまま ▲ ボタンを押したときは、メッセージと警告音でお知らせします）。

本機の基本操作を覚えよう

■各部の名称とおもな働き

本体、マイクの各部の名称と働きを説明します。

本体（モニターを閉じている状態）



- ① (イジェクト) ボタン (→P7,8,15,16)
B-CASカードやディスクの出し入れ、モニターの角度調整を行うための操作画面を表示します。
長く押すと、モニターが開きます。

- ③ (HOME) ボタン (→P12,16,18～24)
HOMEメニューを表示します。
HOMEメニューでは各AVソースの選択や設定画面の表示などができます。
続けて2回押すと、再生中のAVソースを操作できるコントロールバーが表示されます。
長く押すと、Siriアイズフリー（音声認識）機能が使えます。

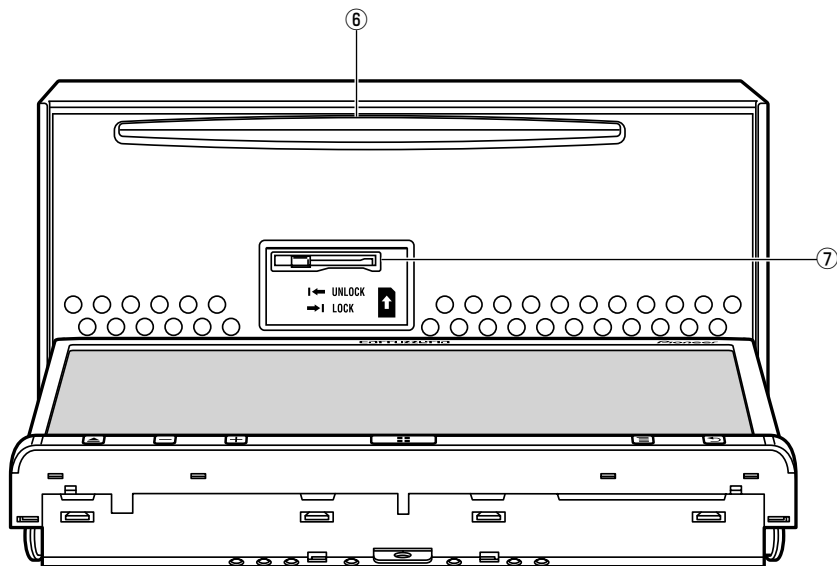
- ・ モニターの角度調整や開閉をするときに、物を挟まないように注意してください。物が挟まってしまったときは、挟まった物を取り除いてから開閉操作をしてください。
- ・ モニターを開閉するときは、指などを挟まれないようにご注意ください。特にお子様にはご注意ください。ケガの原因となることがあります。

- ④ (メニュー) ボタン
Android™ OS搭載スマートフォン（以降Android）を接続した時、操作画面で利用できるメニューを表示します。
- ⑤ (バック) ボタン
Androidを接続時、1つ前の画面に戻ります。

- ② (音量調整) ボタン
オーディオの音量を調整します。

- ・ Androidを接続していないと、 ボタンと ボタンは機能しません。また、ボタンのイルミネーションも点灯しません。

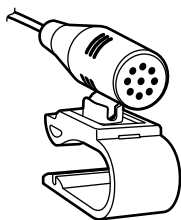
本体（モニターを開いている状態）



⑥ ディスク挿入口 (→P15)
CDやDVDなどを挿入します。

⑦ B-CASカード挿入口 (→P7)
B-CASカードを挿入します。

ハンズフリー用マイク



本機にiPhoneやAndroidをBluetooth接続して、ハンズフリー通話を行う場合、また、iPhoneでSiriアイズフリー（音声認識）機能を使用する場合にマイクに向かって話します。

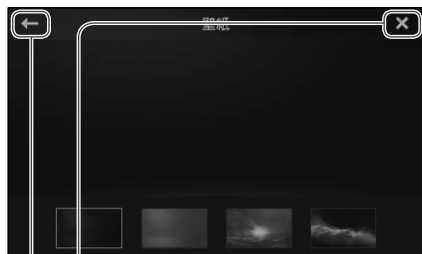
Androidでアプリケーションに搭載の音声認識機能を使用する場合、発話入力にこのマイクを使用することもできます。（Androidの機種やアプリケーションによっては動作しない場合があります。）

基本的な操作のしかた

本機は、画面上に表示されるマークや項目（操作タッチキー）に直接指でタッチして操作します。



メニュー画面



終了
操作を終了し、HOMEメニューまたは1つ前の画面に戻ります。

戻る
1つ前の画面に戻ります。

リスト画面



リスト項目
目的の項目を選んでタッチします。

リストバー
リスト項目量の目安とリストの現在位置を示します。
バーにタッチしたまま上下にスライドすると、スライドした位置のリストが表示されます。

ページ送りタッチキー
タッチするとリストをページ送りします。

また、画面を軽く払うように指を動かすことで、ページや項目の移動が可能です。（フリック操作）

フリック操作ができない画面もあります。

例) HOMEメニュー



ページマーク
現在のページ位置を示します。

- リスト項目は、上下にフリック操作ができます。ただし、一部のリスト(Disc、DTV、設定メニューの各設定項目など)では、できません。

お使いになる前に

基本操作

オーディオ

ハンズフリー

困ったときは

付録

HOMEメニューを表示させる

HOMEメニューは、2ページあります。ページの切り換えはフリック操作 (→P11) で行います。

1 ボタンを押す

HOMEメニューが表示されます。

時計/カレンダー



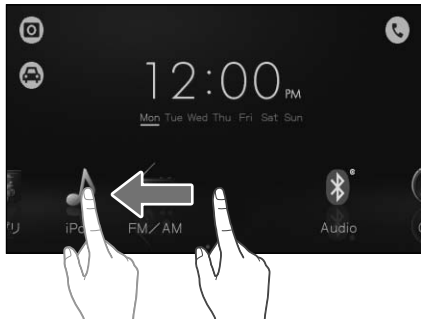
時計/カレンダー	長くタッチすると、時計とカレンダーの調整画面が表示されます。
Disc (CD-ROM/ DVD-V/ DVD-VR)	音楽CDや楽曲を記録したROMなどの音楽ディスク、DVDビデオなどの映像ディスクを再生したいときに選びます。
DTV	地上デジタルテレビ放送を見たいときに選びます。
アプリ	iPhoneやAndroidにインストールしたアプリケーションを本機側で、表示・操作したいときに選びます。(→P17)
iPod	iPodの音楽を聴いたり、映像を見たいときに選びます。
FM/AM	ラジオ放送を聞きたいときに選びます。
	別売のバックカメラユニットの映像を表示したいときに選びます。(リアビューモード) リアビューモード中に画面にタッチすると、元の画面に戻ります。

	幹線道路などで放送されている交通情報を聞きたいときに選びます。
	本機とiPhoneやAndroidをBluetooth接続したいときやハンズフリー通話をしたいときに選びます。



- 機器を接続していなかったり、再生の準備ができていないAVソースは選択できません。
- **iPod**はHDMI接続機器設定 (→P14) が「iPhone」の場合、選択できません。
- はカメラ極性設定 (→P14) がOffの場合、選択できません。
- 別売のバックカメラユニットの映像は、車のシフトレバーをR(リバース)に切り換えたときにも表示させることができます。詳しくは『取付説明書』をご覧ください。

2 左にフリックする



HOMEメニュー (2ページ目) が表示されます。

1ページ目に戻るときは右にフリックしてください。



Audio	接続したBluetooth機器の音楽を再生できます。
OFF	AVソースやアプリをOFFにしたいときに選びます。(→P22)
映像OFF	夜間、画面がまぶしい場合など、一時的に画面を消したいときに選びます。画面にタッチすると、元の画面に戻ります。
設定	設定メニューを表示したいときに選びます。(→P13)

設定メニュー

設定メニューでは、AVソースの機能や音質の設定、画質調整、バックカメラの映像信号設定や、接続状態の確認などが行えます。

オーディオメニュー

ビデオ設定

カスタムメニュー登録済みマーク

システム設定

設定項目

カスタムメニュー

よく使う設定項目として登録したリストを表示できます。各設定項目を、カスタムメニュー登録済みマーク(★)が点灯するまで長く押すことで登録できます。登録を解除する場合は、カスタムメニュー登録済みマーク(★)が消灯するまで長く押します。

システム設定

ビデオ設定

DVDの再生条件を設定できます。



基本字幕	優先して表示させたい字幕の言語を設定できます。
基本音声	優先して聞きたい音声の言語を設定できます。
メニュー言語	ディスクに収録されているメニュー画面の表示言語について、優先して表示させたい言語を設定できます。
マルチアングル	マルチアングルの場面を再生しているときに表示される、アングル選択マークの表示/非表示を設定できます。
テレビアスペクト	テレビ画面のアスペクト(画面の縦横比)を設定できます。
視聴制限レベル	視聴制限レベルが設定されているディスクでは、成人向けの内容や暴力シーンなど、子供に見せたくない場合にパスワードを設定して視聴を制限できます。
DVDオートプレイ	DVDを挿入したときに、メニューのタイトル順に自動的に再生を開始するかどうかを設定できます。

オーディオメニュー

オーディオの音質設定ができます。



フェーダー/バランス	前後左右の音量バランスを設定できます。 (リアスピーカー設定で「フルレンジ」選択時)
-------------------	---

お使いになる前に

基本操作

オーディオ

ハンズフリー

困ったときは

付録

お使いになる前に	バランス (リアスピーカー設定で「サブウーファー」選択時)	左右の音量バランスを設定できます。
	イコライザー	あらかじめ用意された5つの設定とお好みで調節した設定からイコライザーカーブを選ぶことができます。
基本操作	ラウドネス	小さな音量で聞いているときに、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にできます。
	サブウーファー	サブウーファーから出力される音の設定を行うことができます。
オーディオ	バスブースター	サブウーファーから出力される低音域の増強効果を設定できます。
	ハイパスフィルター	選んだ周波数より低い周波数の音がサブウーファー以外の各スピーカーから出力されないように設定できます。
ハンズフリー	ソースレベルアジャスター	AVソースを切り換えたときに音量の違いが出ないように、FMの音量を基準にして各AVソースの音量の差をそろえることができます。

システム設定

本機の動作設定ができます。また、各種情報を確認できます。



HDMI接続機器設定	iPhoneやAndroidの種類に合わせて、HDMIの接続方法を設定できます。(→P17)
リアスピーカー設定	接続するリアスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法が設定できます。
タイトルスクロール	AVソースのリスト画面時のタイトルスクロールを常時または1回のスクロールに設定できます。
Bluetoothメモリクリア	Bluetooth設定の内容を消去できます。
Bluetoothソフトウェアアップデート	Bluetoothソフトウェアをアップデートする際に使用します。

Bluetoothバージョン情報	Bluetoothのバージョン情報を表示できます。
カメラ極性設定	別売のバックカメラユニット接続時に、車の後方の映像を表示できるように設定できます。
映像信号設定	バックカメラの映像信号を設定できます。
画質調整	周囲の明るさや見る角度、映像に合わせて画質を調整できます。(→P16)
時計表示	HOMEメニューの時計/カレンダーの表示形式を12時間表示または24時間表示に設定できます。
壁紙	HOMEメニューなどの背景画面を設定できます。
システムリセット	設定した内容を消去して、工場出荷時の状態に戻すことができます。
取り付け状態	GPSアンテナの接続状態や受信感度と測位状態、取り付け位置の確認や車速パルス、電源電圧、バック信号の状態が表示できます。
センサー学習状況	センサーの学習状況を確認できます。
放送局選択	同じFM/AM周波数でも、地域により受信する放送局が違うことがあります。本機には、あらかじめFM/AM放送局名が登録されています。ディスプレイに表示されている放送局名と受信している放送局名が異なる場合は、放送局名を変更できます。
DTV設定	地上デジタルテレビ放送を受信するときの機能を、テレビ視聴時に設定できます。
Linkwithモード自動起動	Linkwithモードを自動起動するかどうかを設定します。
ファームウェアバージョンアップ	製品本体のソフトウェアのバージョンを表示します。
ファームウェアバージョンアップ	製品本体のソフトウェアを更新します。

ディスクの入れかた・取り出しかた



指のケガに
注意

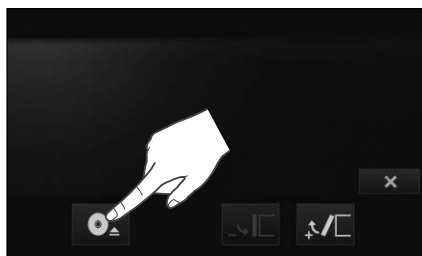
・モニターを開閉するときは、指などを挟まれないようにご注意ください。特にお子様にはご注意ください。ケガの原因となることがあります。



- ・本機を使用していないときは、モニターを閉じた状態にしてください。
- ・モニターの開閉を手動または工具を使って無理に行わないでください。モニターに強い力が加わると故障することがあります。
- ・モニターの開閉をするときに、物を挟まないようにご注意ください。物が挟まってしまったときは、挟まった物を取り除いてから開閉してください。
- ・8 cm ディスクには対応しておりません。また、アダプターを装着した8 cm ディスクも絶対に使用しないでください。

ディスクの入れかた

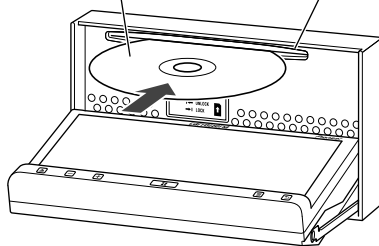
1 ボタンを押し、 にタッチする



▼
モニターが開きます。

2 ディスクを差し込む

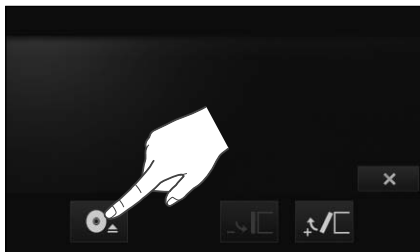
レーベル面を上にする ディスク挿入口



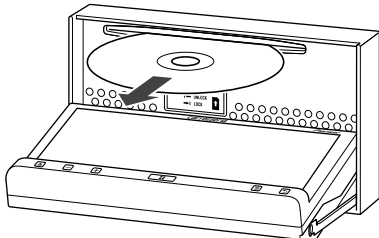
▼
ディスクは途中まで差し込むと自動的に引き込まれ、モニターが閉じます。


ディスクの取り出しかた

1 ボタンを押し、 にタッチする



▼
モニターが開き、ディスクが自動的に押し出されます。



- ・ディスクが途中まで押し出された状態でもう一度  ボタンを押すと、ディスクが自動的に引き込まれ、モニターが閉じます。

1 モニターの角度を調整する

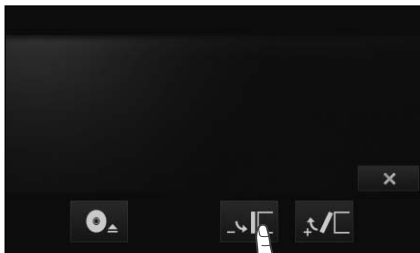
モニターは、見やすいように角度を調整してください。



- モニターの角度調整を手動または工具を使って無理に行わないでください。モニターに強い力が加わると故障することがあります。
- モニターの角度調整をするときは、指などを挟まれないようにご注意ください。特にお子様にはご注意ください。ケガの原因となることがあります。



1 電源ボタンを押す、または音量ボタンにタッチする



タッチすることにより、モニターの角度が変わります。



- 調整したモニターの角度は本機に記憶され、エンジンスイッチをOFF→ON(本機の電源をOFF→ON)した場合でも自動的に調整した角度になります。

2 設定ボタンにタッチする

モニター画質を調整する

周囲の明るさや見る角度、映像に合わせて「黒の濃さ」、「コントラスト」、「色の濃さ」、「色あい」、「明るさ」、「色温度」を調整できます。調整は、バックカメラの映像と各AVソースそれぞれで行えます。

1 設定ボタンを押す、設定メニューにタッチする



2 調整したい項目にタッチする



バックカメラ / **ソース** にタッチすると、調整範囲をバックカメラまたはAVソースに切り換えられます。

3 設定ボタンを押す、または設定メニューにタッチする



設定ボタン / 設定メニュー で調整項目を切り換えられます。

4 設定ボタンにタッチする

アプリケーションの使いかたを覚えよう

iPhoneやAndroidと本機を接続することにより、iPhoneやAndroidにインストールされているアプリケーションを、本機の画面に表示できます。

本機対応のアプリケーションの場合は、本機でアプリケーションを操作することもできます。



- iPhoneやAndroidやアプリケーションの仕様によっては、本機の画面に表示できない場合があります。
- iPhoneやAndroidを本機に接続するには、お使いのiPhoneやAndroidにあわせた接続ケーブル（別売）が必要です。→『取付説明書』
- iPhone 4SまたはiPhone 4と、Androidを同時に接続することもできます。同時に接続した場合、本機でアプリケーションを操作できるのはAndroidとなります。

iPhoneをお使いの場合

Linkwithモードで使用します。アプリケーション「Linkwith」をiPhoneにインストールして、本機と接続します。

iPhone 5をお使いの場合

1  ボタンを押し、左にフリックする

2 **設定** -  にタッチし、**HDMI接続機器設定**にタッチして「iPhone」にする



- 設定変更は、以下の場合に可能です。
 - AVソースがOFFになっている(→P22)
 - HDMI、USBの接続機器が接続されていない
 - Bluetooth接続がされていない

3 アプリケーション(『Linkwith』)をiPhone 5にインストールする

App Storeよりダウンロードできます。

4 ケーブル接続を行う

接続方法は『取付説明書』をご覧ください。

5 本機またはiPhone 5からBluetooth設定を行う

本機から行う場合：

「ハンズフリー通話をしてみよう」→「iPhone/Androidを登録する」(→P23)をご覧ください。



- HDMI接続機器設定を「iPhone」に設定すると、iPodソースは使用できません。iPhone内の音楽を再生する場合は、Linkwithメディアプレーヤーをご利用ください。

iPhone 4S、iPhone 4をお使いの場合

1  ボタンを押し、左にフリックする

2 **設定** -  にタッチし、**HDMI接続機器設定**にタッチして「Android」にする

アプリケーション(『Linkwith』)をiPhone 4S、iPhone 4にインストールする

App Storeよりダウンロードできます。

4 ケーブル接続を行う

接続方法は『取付説明書』をご覧ください。

■ Androidをお使いの場合



- Androidの対応機種について詳しくは、弊社ホームページでご確認ください。MHLとHDMIがあり、ケーブル接続方法が異なります。お手持ちのAndroidがどちらの機種か、合わせてご確認ください。

Linkwith モードで使う

アプリケーション「Linkwith」をAndroidにインストールして、本機と接続します。

1 ボタンを押し、左にフリックする

2 **設定** - にタッチし、**HDMI接続機器設定**にタッチして「Android」にする

3 **アプリケーション** (『Linkwith』) をAndroidにインストールする

Google Playよりダウンロードできます。

4 ケーブル接続を行う

接続方法は『取付説明書』をご覧ください。

5 本機またはAndroidからBluetooth設定を行う

本機から行う場合：

「ハンズフリー通話をしてみよう」 - 「iPhone/Androidを登録する」 (→P23)

をご覧ください。

Androidから行う場合：

『Linkwith』の設定メニューよりBluetooth設定マニュアルをご覧ください。

MirrorLink™ モードで使う

MirrorLink対応機種をお使いの場合に使用できます。

1 ボタンを押し、左にフリックする

2 **設定** - にタッチし、**HDMI接続機器設定**にタッチして「Android」にする

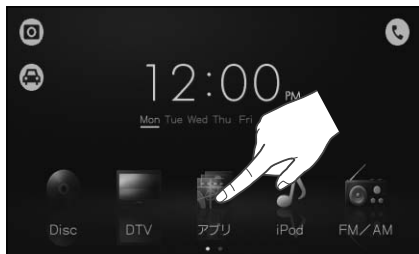
3 ケーブル接続を行う

接続方法は『取付説明書』をご覧ください。

■ アプリケーションを使う

Linkwith モードで使う場合

1 ボタンを押し、**アプリ**にタッチする





- iPhoneやAndroidをHDMIで接続してアプリケーションを使う場合は、Bluetooth接続はHDMI接続されたiPhoneやAndroidに対して正しく行ってください。指定以外の接続を行った場合、機能が正しく動作しません。
- アプリ**のアイコンは、Bluetooth接続やケーブル接続状態によって変わります。アイコンが接続完了の状態にならないと、アプリケーションは使用できません。

iPhone 5の場合

	接続待機
	接続中
	接続完了

iPhone 4S、iPhone 4の場合

	接続完了
--	------

Androidの場合

	接続待機
	接続中
	接続完了

Bluetooth接続完了までは、約30秒から1分程度かかります。

- 本機とBluetooth接続していないAndroidを接続し、**アプリ**にタッチした場合は、Bluetooth接続を促すメッセージが表示されます。**設定**にタッチするとBluetooth設定メニューが表示されます。本機でアプリケーションを操作する必要がない場合は、**無視**にタッチしてください。その後画面にタッチすると、最後に接続したAndroidとの再接続が行われます。(接続状況は表示されません。)

2 使いたいアプリケーションにタッチする



▼
アプリケーションが起動します。

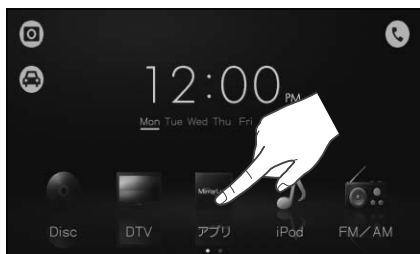
以降、操作の詳細はアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。



- 「」にタッチすると、本機対応のアプリケーションをインストールすることができます。
- 使いたいアプリケーションを変更する場合は、 ボタンを押して手順2の画面に戻ってください。再度 ボタンを押すと、HOMEメニューに戻ります。
- 本機で対応していないアプリケーションについては、iPhoneやAndroidを操作してアプリケーションを起動させてください。

MirrorLink モードで使う場合

1 ボタンを押し、**アプリ**にタッチする



▼
ご使用のMirrorLink対応機種によっては、専用ランチャーアプリケーションが立ち上がります。専用ランチャーアプリケーションが無い場合は、MirrorLink対応アプリケーションが表示されます(手順2)。



- アプリ**のアイコンは、ケーブル接続状態によって変わります。アイコンが接続完了の状態にならないと、アプリケーションは使用できません

	接続完了
--	------



2 使いたいアプリケーションにタッチする



アプリケーションが起動します。

以降、操作の詳細はアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。



- 使いたいアプリケーションを変更する場合は、 ボタンを押して手順2の画面に戻ってください。再度  ボタンを押すと、HOMEメニューに戻ります。

音楽や映像を楽しもう

CD、TV、DVD、Bluetooth Audioなどの音源や映像のことを「AVソース」と呼びます。

基本的なAVソースの操作

ラジオ (FM) ソースを例に説明します。



- 選んだAVソースによって、操作方法や表示されるタッチキーは異なります。

1 ボタンを押し、**FM/AM**にタッチする




リスト項目



FM1 /	バンドを切り換えます。
FM2 /	
AM1 /	
AM2	

リスト項目	選択した放送局にタッチすると、その放送局の放送を受信します。長くタッチすると、現在受信中の周波数をプリセットメモリーとしてリストに登録します。
-------	---


BSM	受信状態の良い放送局を自動的に登録してリスト表示します。
	周波数を順に送ります。長くタッチすると、受信できる放送局を自動的に探し、受信すると止まります。



2 ボタンを2回押す

コントロールバーが表示されます。




コントロールバー

MIX	アプリケーション (→P17) の音声と、AVソースの音声を同時に出力できます (MIX機能)。タッチして、同時に出力するAVソースを選びます。 + または - でアプリケーションの音量を調整します。同時出力を行わないときは MIX OFF を選びます。
	音声をミュート (消音) します。もう一度タッチすると、ミュートを解除します。

情報表示 / 画面切換	AVソースの情報を表示します。アプリケーションが接続完了状態になっているときは、タッチするとアプリケーション選択画面とホーム画面が切り換わります。MIX機能がONの場合は、アプリケーション選択画面とAVソース画面が切り換わります。
	放送局を選びます。長くタッチすると、受信できる放送局を自動的に探し、受信すると止まります。
FM1 / FM2 / AM1 / AM2	バンドを切り換えます。
	画面が一時的に消えます。もう一度画面にタッチすると、元の画面に戻ります。




- コントロールバーは、AVソース画面以外でも表示させることができます。(設定メニューなど一部対象外の画面もあります。)
- コントロールバーを消すときは、画面にタッチするか、 ボタンを押します。

映像系AVソースについて

DVDやTV、iPodビデオなどの映像系AVソースを選んだ場合は、はじめに映像画面のみが表示されます。映像画面にタッチすることで、操作タッチキーを表示させることができます。



- 何も操作しないと、約7秒後に自動的に映像画面に戻ります。
- 操作タッチキーを消すには、背景の映像(タッチキー以外の表示)、または  にタッチしてください。

AVソースをOFFにする

1  ボタンを押し、左にフリックする

2  にタッチする



AVソースがOFFになります。

ハンズフリー通話を試みよう

Bluetooth接続されたiPhoneやAndroidと付属のハンズフリー用マイクを使って、ハンズフリー通話ができます。



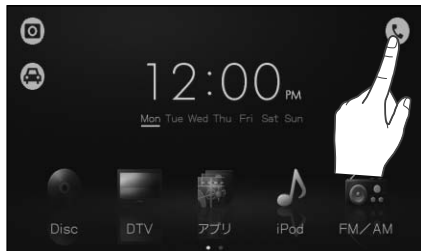
- Bluetooth対応のiPhoneやAndroidをご用意ください。ただし、機種によっては本機との接続に制限が発生する場合がありますのでご注意ください。
- iPhoneやAndroidから本機を登録・接続する必要がある場合は、iPhoneやAndroidの取扱説明書をご覧ください。

iPhone/Androidを登録する

ハンズフリーに使うiPhoneやAndroidを本機に3台まで登録できます。あらかじめお使いになるiPhoneやAndroidのBluetooth機能をONにしてください。

→iPhone/Androidの「取扱説明書」

1 [設定] ボタンを押し、[Bluetooth] にタッチする



2 [設定] にタッチする



3 機器登録/削除にタッチする



4 [検索] にタッチする



周辺のBluetooth機器を検索してリスト表示します。

お使いになる前に

基本操作

オーディオ

ハンズフリー

困ったときは

付録

5 登録するiPhoneやAndroidにタッチする



6 iPhoneやAndroidを操作してパスキーを入力する



以上で、登録完了です。

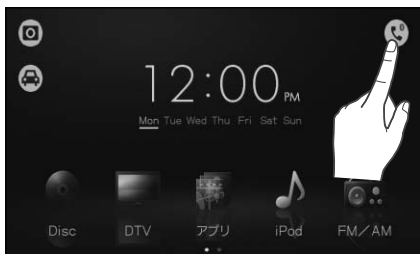


- iPhone や Android によっては、パスキーの入力が不要な場合もあります。
- 上記操作で登録できない場合は、iPhone や Android 本体から本機を登録してください。

ハンズフリー通話をする

電話のかけかた

1 [ハンズフリー] ボタンを押し、[通話] にタッチする



2 発信方法を選んでタッチする



ダイヤル画面が表示されます。発信先の電話番号を入力して [ダイヤル] にタッチします。



発信履歴、着信履歴、不在着信履歴のリストを表示します。発信相手を選んでタッチし、 [通話] にタッチします。



iPhone や Android の電話帳を表示します。発信相手を選んでタッチし、 [通話] にタッチします。



iPhone や Android ごとに、よく連絡する発信相手を6件まで登録できます。



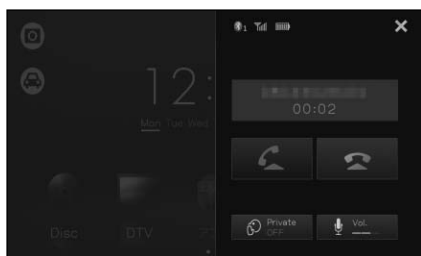
- 走行中はダイヤル画面は表示できません。
- iPhone や Android 本体を操作して発信することもできます。


電話の受けかた

1 着信したら、にタッチする



▼
通話が可能になります。



	電話を切ります。
Private	ハンズフリー機能をON/OFFします。iPhoneやAndroidで通話したいときは「ON」にしてください。
Vol.	受話音量を3段階で調整できます。






• iPhone や Android 本体を操作して電話を切ることもできます。

Siriアイズフリー（音声認識）機能を使う（iPhone専用）

 ボタンを長く押すか、「ハンズフリー通話をする」→「電話のかけかた」（→P24）手順2の画面で  にタッチすることにより、本機よりiPhoneのSiriアイズフリー機能を使用することができます。



▼
 にタッチ、マイクに向かって発声してiPhoneを操作します。

終了するには、 にタッチして音声認識ウィンドウを閉じるか、 ボタンを押します。



- 本機能を使用するには、以下の条件が必要です。
 - iPhoneにiOS 6.1以上が搭載されている
 - iPhoneでSiri機能がONに設定されている上記以外の場合は、音声コントロールとして動作します。
- iPhone以外の機器の音声認識機能には対応していません。

お使いになる前に

基本操作

オーディオ

ハンズフリー

困ったときは

付録

故障かな？と思ったら

修理を依頼する前に、以下の内容をチェックしてください。チェックしても直らないときは、「保証書とアフターサービス（→P36）」をお読みになり修理を依頼してください。

■ 共通項目

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
電源が入らない、動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンジンがかかっていない。 → エンジンまたはACCをONにしてください。 ・ ヒューズが切れている。 → ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 ・ 接続ケーブルが正しく接続されていない。 → 接続ケーブルが正しく接続されているかご確認ください。→「取付説明書」 ・ 周囲の温度が極度に低いまたは高い。 → 本機には、使用温度範囲（→P37）があります。使用温度範囲になるまで、エアコンなどで温度を調節してください。
画面に何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像OFF状態になっている。 → 画面にタッチして、映像OFFを解除してください。
画質調整ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーキングブレーキをかけていない。 → パーキングブレーキをかけてください。
画面に小さな黒い点や明るく光る点がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液晶特有の現象で、故障ではありません。
画面の残像が目立ったり、画質が劣化して見える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の温度が極端に低い。 → 周囲の温度が高まると通常画質に戻ります。
タッチキーの表示が薄く、タッチしても反応しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行規制などで、走行中は操作できないタッチキーである。 → 車を安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけてから操作してください。 ・ 設定や接続状況などにより、操作できないタッチキーである。 → 本書や取付説明書またはユーザーズガイド（ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。）で設定や接続状態を確認してください。
自転車位置を測位できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPSアンテナの上に電波をさえぎる物が置いてある。 → GPSアンテナの上には何も置かないでください。
測位誤差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dハイブリッドセンサーが正しく学習されていない。 → 3Dハイブリッドセンサーのメモリーをリセットして、学習をやり直してください。→「ユーザーズガイド」（ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。）
自転車位置が正しくない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車位置がずれている。 → GPS測位が可能な状態で、しばらく走行すると自転車位置が修正されます。 → 「取付説明書」 ・ 車速パルスが正しく入力されていない。 → 取り付け状態画面で、接続状態を確認してください。→「取付説明書」

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
Bluetoothを使ってiPhoneやAndroidと接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPhoneやAndroidを登録していない。 ➔ 接続したいiPhoneやAndroidを本機に機器登録してください。(→P23) ・ 接続していたiPhoneやAndroidを別のiPhoneやAndroidに変えた。 ➔ 変えたiPhoneやAndroidを本機に登録するか、登録済みのiPhoneやAndroidに変えた場合はiPhoneやAndroidの切り換え操作を行ってください。⇒『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)
ハンズフリー通話時に、通話相手側のエコー(残響音)が大きく聞こえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通話相手側の声(スピーカーからの音声)がマイクに入り込んでいる。 ➔ エコーは相手の声が車両スピーカーを通してマイクに入り込むことが原因で発生するため、受話音量を小さくすることで改善できます。ただし、本機のしくみ上、完全にエコーをなくすことはできません。また、通話相手側が大きな声で喋るとさらに聞き取りにくくなりますので、普通の大きさの声で通話してください。

アプリケーション

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
アプリのアイコンが接続完了にならず、アプリケーション操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPhone 5において、設定メニューのHDMI接続機器設定で「Android」が選択されている。 ➔ 「iPhone」を選択してください。その後Bluetoothの接続をしてください。 ・ iPhone 4S、iPhone 4、Androidにおいて、設定メニューのHDMI接続機器設定で「iPhone」が選択されている。 ➔ 「Android」を選択してください。Androidの場合、その後Bluetoothの接続をしてください。 ・ iPhone 5やAndroidで、Bluetoothの接続設定が正しく行われていない。 ➔ Bluetooth接続設定が正しく行われているかご確認ください。→『iPhone/Androidを登録する』(→P23) ・ 接続ケーブルが正しく接続されていない。 ➔ 接続ケーブルが正しく接続されているかご確認ください。→『取扱説明書』
□/⊕ボタンで音量が調整ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIX機能がONになっている。 ➔ MIX機能がONのときは、アプリケーションの音量調整はできません。コントロールバーのMIXにタッチして表示される音量調整キーで調整するか、MIX機能をOFFに切り換えてください。(→P21)

オーディオ共通項目


こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
走行中、テレビやDVDなどの映像が見られない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーキングブレーキコードを接続していない。 ➔ パーキングブレーキコードを接続し、パーキングブレーキをかけてください。本機は、安全のため走行中にテレビやDVDなどの映像を見ることができません。映像をご覧になる場合は、安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけて、お楽しみください。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオの音量が0になっている。 ➔ □/⊕ボタンを押して、音量を調整してください。(→P9)
前/後/左/右のスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後左右の音量バランスの調整が適切でない。 ➔ 正しく調整・設定してください。⇒『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)
映像がギザギザに表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワイド画面特有の現象で、故障ではありません。

FM/AM

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
ラジオ受信中に“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	・ 放送局の電波が弱い。 → 他の放送局を選局してください。(→P21)
	・ 周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。 → 受信状態の安定した場所に移動して、受信してください。
自動選局できない。	・ 強い電波の放送局がない。 → 手動で選局してください。(→P21)
FMは受信するが、AMが受信できない。受信感度が悪い。	・ 自動車のアンテナが伸びていない。 → アンテナを十分に伸ばしてください。
	・ アンテナコントロールが接続されていない。 → ガラスアンテナ、ルーフアンテナ車の場合、車側のアンテナブースターの電源入力端子にアンテナコントロールを接続してください。→『取付説明書』

DVD

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
再生できない	・ 本機のリージョン番号と異なるディスクを挿入した。 → 本機と同じリージョン番号のディスクに交換してください。⇒『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)
	・ ファイナライズされていないディスクを挿入している。 → ファイナライズされたディスクを挿入してください。
ディスクを入れても自動的に再生しない。	・ ディスクによっては、ディスクメニューが表示されて自動的に本編を再生しない場合がある。 → ディスクメニューを操作して、再生を開始するか、オートプレイをONに設定してください。⇒『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)
音が出ない。	・ 静止画、スロー、コマ送り再生中である。 → 静止画、スロー、コマ送り再生中に、音声を聞くことはできません。
視聴制限のメッセージが表示され、再生できない。	・ 視聴制限がかかっている。 → 視聴制限を解除、またはレベルを変更してください。⇒『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)
音声言語、字幕言語が切り換えられない。	・ 複数の言語が収録されていないDVDを再生している。 → 複数の言語が収録されていないディスクでは、切り換えられません。
	・ ディスクメニューでしか切り換えできないように制限されている。 → ディスクメニューで切り換えてください。
初期設定で選んだ音声言語、字幕言語にならない。	・ 初期設定で選んだ言語が収録されていないDVDを再生している。 → 初期設定で選んだ言語が収録されていないDVDでは、選んだ言語には切り換わりません。
アングルを切り換えて見ることができない。	・ 複数のアングルが収録されていないDVDを再生している。 → 複数のアングルが収録されていないDVDでは、切り換えられません。
	・ 複数のアングルが収録されていない場面で操作している。 → 複数のアングルが収録されている場面で、操作してください。

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
ディスク再生中に映像が乱れる。または暗い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスクコピー禁止信号が入っている。(ディスクによって入っている場合がある。) ➔ アナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、コピー禁止信号が入っているディスクを再生した場合、一部のモニターでは横縞が入るなどの症状が出るものがあります(故障ではありません)。
Ⓝ(禁止マーク)が画面に出て操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスクが禁止している操作である。 ➔ この操作はできません。 ・ ディスクの構造上対応できない操作をしている。 ➔ この操作はできません。
画面が止まり、操作を受け付けられない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスク再生中にデータを読み取れなくなった。 ➔  にタッチしてから、もう一度再生してください。

CD、ROM (WMA/MP3/AAC)

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
CD-RやCD-RW、CD-ROMを再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスクがファイナライズされていない。 ➔ ディスクをファイナライズしてください。
WMA/MP3/AACファイルを再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ WMAファイルに「.wma」、MP3ファイルに「.mp3」、AACファイルに「.m4a」の拡張子が付いていない。 ➔ WMAファイルに拡張子「.wma」、MP3ファイルに拡張子「.mp3」、AACファイルに拡張子「.m4a」の付いたディスクに交換してください。 ・ 対応していないビットレートで記録されている。 ➔ 対応しているビットレートで記録されたWMA/MP3/AACファイルにしてください。 ・ ISO9660のレベル1、レベル2、Romeo、Jolietに準拠して記録されていない。 ➔ ISO9660のレベル1、レベル2、Romeo、Jolietに準拠して記録されたディスクに交換してください。
WMA/MP3/AACファイル再生中に大きな雑音が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルの形式と拡張子があっていない。 ➔ ディスクを交換してください(WMA形式でないファイルに「.wma」、MP3形式でないファイルに「.mp3」、AAC形式でないファイルに「.m4a」の拡張子を付けたCD-ROMを再生しないでください)。
聴きたいWMA/MP3/AACファイルが見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ WMAファイルに「.wma」、MP3ファイルに「.mp3」、AACファイルに「.m4a」の拡張子が付いていない。 ➔ WMAファイルに拡張子「.wma」、MP3ファイルに拡張子「.mp3」、AACファイルに拡張子「.m4a」の付いたディスクに交換してください。
フォルダー名やファイル名が正しく表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO9660のレベル1、レベル2、Romeo、Jolietに準拠して記録されていない。 ➔ ISO9660のレベル1、レベル2、Romeo、Jolietに準拠して記録されたディスクに交換してください。
WMA/MP3/AACファイル再生が、記録した順と異なる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ WMA/MP3/AACファイルは、記録したときの順番どおりに再生されない場合がある。 ➔ ライティングソフトウェアによっては、フォルダー名、ファイル名のはじめに数字(01、02など)を付けることにより、再生順を指定できる場合があります。

テレビ

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
画面が止まっている。 画面がカクカクして映る、コマ落ちしている。 画面に正方形のノイズが映る。	<ul style="list-style-type: none"> 受信状態が悪くなった場合などは、そのような症状になります。これらは地上デジタル放送特有の現象で、故障ではありません。 → 受信状態の安定した場所に移動して、視聴してください。
受信できない。 「受信できません」というメッセージが表示される。 「チャンネルスキャンをしてください」というメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> チャンネルスキャンをしていない。 → 初めて使うときやバッテリーを外したとき、「視聴者設定クリア」をしたときは、チャンネルスキャンをしてください。→ 「テレビを見るための準備をしよう」(P7) 移動により、受信中のチャンネル電波が弱くなった。 → 他の中継局(チャンネル)に切り換えてみてください。オート放送局サーチ設定で受信中は、受信可能な中継局を自動的に探して切り換えることができます。⇒ 『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。) 放送局(チャンネル)が増えたり、他のエリアに移動して受信環境が変わった。 → 受信環境が変わったときは、チャンネルスキャンをしてください。→ 「テレビを見るための準備をしよう」(P7) 受信レベルが低下して、放送が受信できない。 → 受信状態の安定した場所に移動して視聴してください。画面にワンセグ切り換え可マークが表示されているときは、ワンセグ放送に切り換えることができます。⇒ 『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。) 車両に電波シールドガラスが使われている。 → 外付けの地上デジタルテレビ用アンテナを使用してください。
メッセージが表示され、視聴ができない。	<ul style="list-style-type: none"> B-CASカードを挿入していない。 → B-CASカードを挿入してください。→ 「テレビを見るための準備をしよう」(P7) B-CASカードの表裏を間違えて挿入している。 → B-CASカードを正しい向きで挿入してください。→ 「テレビを見るための準備をしよう」(P7) 本機が対応しない放送を視聴しようとしている。 → 以下の放送には対応していません。 ① 番組単位で購入できる有料放送(ペイ・パー・ビュー) ② 双方向通信を使うデータ放送 ③ ワンセグのデータ放送 対応している放送に切り換えてください。
データ放送画面に切り換えられない。 映像切換、音声切換、字幕切換、音声多重のタッチキーが薄く表示されていて、切り換えられない。	<ul style="list-style-type: none"> 受信中の番組が、それらの情報を放送していない。 → それらの情報を放送している番組で操作してください。
画質が悪くなった。	<ul style="list-style-type: none"> ワンセグに切り換わっている。 → ワンセグを12セグに手動で切り換えるときは、サービス切換にタッチします。⇒ 『ユーザーズガイド』(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)

こんな症状のとき	考えられる原因とその処置
接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続ケーブルが正しく接続されていない。 → 接続ケーブルが正しく接続されているかご確認ください。→「取付説明書」 ・ お使いのiPodが本機に対応していない。 → 対応iPodについては、カロッツェリアホームページ (http://carrozzeria.jp) でご確認ください。 ・ 設定メニューのHDMI接続機器設定で「iPhone」が選択されている。 → 「Android」を選択してください。
ビデオが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続しているiPodがビデオ機能に対応していない。 → ビデオ機能に対応したiPodでないと、ビデオはご覧になれません。 ・ 接続したiPodとの認証に失敗した。 → 接続し直してください。

エラーメッセージと対処方法

■ 共通項目

エラーメッセージ	考えられる原因とその処置
走行中は操作できません。 この機能は走行中利用できません。	<ul style="list-style-type: none"> 走行規制のかかった操作を行おうとした。 ➔ 車を安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけてから操作してください。

■ アプリケーション

エラーメッセージ	考えられる原因とその処置
<ul style="list-style-type: none"> 通信エラーが発生しました。 アプリの読み込みに失敗しました。 	<ul style="list-style-type: none"> MirrorLinkモードで接続中、何らかの原因で本機との通信に失敗した。 ➔ 接続ケーブルを一度外し、再度接続してください。それでも改善されないときは、MirrorLink対応機種を再起動してください。

■ テレビ

エラーメッセージ	考えられる原因とその処置
DTVで高温を検出しました。 保護のため停止中です。	<ul style="list-style-type: none"> 内部温度が高くなった。 ➔ 正常に動作する温度になるまでお待ちください。改善されないときは、設置場所に問題がないか確認してください。
サービスが登録されていません。 電波状況の良い場所でスキャンをしてください。	<ul style="list-style-type: none"> サービスが登録されていない。 ➔ 電波状況の良い場所で、チャンネルスキャンを行ってください。⇒『ユーザーズガイド』（ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。）
アンテナ接続エラーの可能性が あります。	<ul style="list-style-type: none"> 地上デジタルTVのアンテナに不具合がある。 ➔ 地上デジタルTVのアンテナ接続が正しく行われているか確認してください。

取り扱い上のご注意

液晶画面の正しい使いかた

取り扱い上のご注意

- 市販の液晶保護フィルムを貼ると、タッチパネルでの操作に支障が出る場合があります。
- 液晶画面は指定温度範囲内でお使いください。→「仕様」(P37)
- 直射日光の当たる状態で長時間使用すると、高温になり、液晶画面が故障する恐れがあります。できる限り直射日光が当たらないようにしてください。
- 液晶画面を強く押さないでください。故障する恐れがあります。
- キズや汚れの原因になりますので、液晶画面に触れるときは、必ず指先で触れてください。
- iPhoneやスマートフォンをお使いになるときは、iPhoneやスマートフォンのアンテナを液晶画面に近づけないでください。画面に斑点や色模様などのノイズが出たり、映像が乱れたりすることがあります。
- 液晶画面の中に小さな黒い点や明るく光る点(輝点)が出る場合があります。これは、液晶画面特有の現象で故障ではありません。
- 液晶画面に直射日光が当たると、光が反射し画面が見づらくなりますので、直射日光をさえぎってください。

LED バックライトについて

- 周辺温度が低い状況でお使いになる場合は、液晶の特性上残像が目立ちやすくなり画質が劣化することがあります。周辺温度が高まれば通常画質に戻ります。
- 真夏の炎天下や、エアコンの温風が直接モニター部に当たってモニター部が高温状態になると、LED保護のため、自動的にバックライトの明るさを絞る場合があります。
- LEDバックライトの寿命は1万時間以上ですが、高温下でお使いになると寿命が短くなる場合があります。

- LEDバックライトが寿命になると、画面が暗くなったり、映像が映らなくなったりします。このときはお買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。

お手入れについて

- 液晶画面に付いたホコリや液晶画面の汚れを清掃するときは、電源を切ってから、柔らかいきれいな布でから拭きしてください。
- 液晶画面を拭くときは、ツメで引っかかないように注意してください。画面にキズが付くと映像が見づらくなります。
- めれたぞうきんや化学ぞうきんは使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

ディスクの正しい使いかた

取り扱い上のご注意

- 以下マークのついたディスクをご使用ください。

DVD-Video



CD



- ひび、キズ、そりのあるディスクは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。
- ディスクを持つときは、記録面(虹色に光っている面)を触らないようにしてください。
- ディスクにキズを付けしないでください。
- ディスクに紙やシールなどを貼り付けしないでください。

- レーベル面に印刷ができるディスクを使用するときは、ディスクの説明書や注意書きを確認してください。ディスクによっては、挿入または取り出しができないものがあります。そのようなディスクを使用すると、本機の故障の原因になります。
- ディスクには、市販のラベルなどを貼りつけないでください。
 - － ディスクに反りが生じて、再生できなくなる原因になります。
 - － 再生中にラベルがはがれると、ディスクが取り出せなくなり、本機の故障の原因になります。



- ・ 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。
- ・ 再生できるディスクの種類やファイル形式などについては『ユーザーズガイド』をご覧ください。(ユーザーズガイドの閲覧方法については、本書の表紙をご覧ください。)

お手入れについて

- ディスクが汚れたときは、柔らかいきれいな布で、ディスクの内側から外側へ向かって軽く拭いてください。
- ディスクに、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。また、ディスクには、アナログ式レコード盤用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。

保管上のご注意

- ディスクは、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。
- ディスクがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

ディスク再生の環境について

- 走行中に振動でディスクのデータを正確に読み取れないことがあります。
- 低温時、ヒーターを入れた直後にディスク再生を始めると、本機内部のレンズやディスクに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。ディスクに付いた露は柔らかい布で拭いてください。
- 高温になると保護機能が働き、ディスク再生が停止します。

B-CASカードの正しい使いかた

B-CASカードの取り扱いについて

B-CASカードは必要なとき以外は抜かないでください。

- － 必要がないのに抜き差しすると故障の原因になります。
- － B-CASカードの中にはICが内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れないように注意してください。
- － 本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」とならないよう、方向に注意してください。



- ・ 直射日光の当たるところや高温になるところには、B-CASカードを保管しないでください。
- ・ 磁石の近くやテレビの上など、磁気のあるところに置いたままにしないでください。

iPodに関するご注意

取り扱い上のご注意

- iPodを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPodは必ず固定してください。iPodが落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。

著作権について

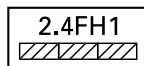
- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

電波に関するご注意

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また本機は日本国内のみで使用できます。
- 以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
 - * 分解/ 改造すること。
 - * 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- 本機の無線機能は、2.4 GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器（電子レンジ、無線LAN機器など）が使用していますので、電波の干渉により、本機の無線機能の音声がとぎれたり聞きとりにくくなる場合があります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、以下の内容に注意してください。
 - * 無線LANを利用したAV機器・防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、声かとぎれ

たり、無線LAN機器の動作に大きな影響を与えることがあります。

- その他、以下の機器でも、2.4 GHzの周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、音声がとぎれたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。
 - * 火災報知機・ワイヤレスAV機器（テレビ、ビデオ、コンピューターなど）
 - * 工場や倉庫などの物流管理システム・鉄道車両や緊急車両の識別システム
 - * マイクロ波治療器・ゲーム機のワイヤレスコントローラー
 - * 自動ドア・万引き防止システム（書店やCDショップなど）
 - * 自動制御機器・その他、Bluetooth®対応機器やVICS（道路交通網システム）
 - * アマチュア無線局など



2.4 FH 1
① ② ③

- ① 「2.4」GHz帯を使用する無線設備を表します。
- ② 「FH」変調方式を表します。
- ③ 「1」想定される与干渉距離（約10 m）を表します。

本機から移動体識別用の特定小電力無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、パイオニアカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

■保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。

記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

■保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

■修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください。（お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります。）

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

車からの脱着（お取り外し・お取り付け）について

弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、承ります。

なお、修理の際の本製品のお車からの脱着サービスは弊社で承っておりません。

お車からの脱着については、お買い上げの販売店や取り付け店へご相談ください。お車からの脱着費用につきましてはお客様のご負担となります。

■補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

■ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

仕様

◆共通部

使用電圧：DC 14.4 V
(10.8 V～15.1 V使用可能)

最大消費電流：10 A
アース方式：マイナースアース方式
使用温度範囲：-10℃～+60℃

◆GPS部

受信方式：
50チャンネルマルチチャンネル受信方式

◆オーディオ部

最大出力：50 W×4
負荷インピーダンス：4 Ω
(4 Ω～8 Ω使用可能)

プリアウト最大出力レベル：1.5 V
イコライザー

(5バンドグラフィックイコライザー)：

周波数：100 Hz/315 Hz/1.25 kHz/
3.15 kHz/8 kHz

調整幅：±12 dB (2 dB/step)

カットオフ周波数：

ハイパスフィルター：

50 Hz/63 Hz/80 Hz/100 Hz/125 Hz

ローパスフィルター (サブウーファー)：

50 Hz/63 Hz/80 Hz/100 Hz/125 Hz

サブウーファー位相：NORMAL/REVERSE

◆DVDプレーヤー部

リージョンNo.：2

対応メディア：

DVD (VIDEO MODE、VR MODE)、
DVD-R (DL)、DVD-RW、CD-ROM、
CD-DA、CD-R/RW

デコーディングフォーマット：

MP3：MPEG-1,2,2.5 AUDIO LAYER-3

WMA：Ver.7,8,9 (2 ch audio)

AAC：MPEG-4 AAC (Ver.10,01,22 以
前のiTunesでエンコードされたも
ののみ)

周波数特性：

(DVD値)：16 Hz～22 000 Hz (±1 dB)

(CD値)：20 Hz～20 000 Hz
(+0.1 dB/-1.0 dB)

S/N：

(DVD値)：97 dB (1 kHz) (IHF-Aネットワーク)

(CD値)：96 dB (1 kHz) (IHF-Aネットワーク)

ダイナミックレンジ：

(DVD値)：95 dB (1 kHz)

(CD値)：94 dB (1 kHz)

高調波歪率：0.008 % (1 kHz)

◆FMチューナー部

受信周波数帯域：76.0 MHz～90.0 MHz

音声：ステレオ

◆AMチューナー部

受信周波数帯域：522 kHz～1 629 kHz (9 kHz)

音声：モノラル

◆地上デジタルTVチューナー部

放送方式：地上デジタル放送方式

受信チャンネル：470 MHz～770 MHz
(UHF13 ch～62 ch)

◆モニター部

画面サイズ：7V型ワイドVGA

画素数：1 152 000画素

[水平800×垂直480×3 (RGB)]

方式：TFTアクティブマトリクス方式

バックライト：LED光源

表示色数：26.2万色

◆地上デジタルTV用フィルムアンテナ

使用電源：DC8 V

出力端子：4系統 (専用プラグ)

◆Bluetooth部

Bluetoothバージョン：Bluetooth2.1+EDR

出力：+4 dBm (Power class2)

◆外形寸法

本体取付寸法：

178 (W) mm×100 (H) mm×168 (D) mm

本体ノーズ寸法：

171 (W) mm×97 (H) mm×16 (D) mm

GPS / 地上デジタルTV (12セグ) 複合

フィルムアンテナ：

フィルムアンテナ部：

115 (W) mm×75 (H) mm×0.4 (D) mm

電源供給部：

48.1 (W) mm×17.6 (H) mm×7.5 (D) mm

地上デジタルTV (12セグ) 用

フィルムアンテナ：

フィルムアンテナ部：

118 (W) mm×86 (H) mm×0.4 (D) mm

電源供給部：

38.7 (W) mm×9 (H) mm×5.9 (D) mm

◆質量

本体：2.2 kg

◆付属品

GPS / 地上デジタルTV (12セグ) 複合

フィルムアンテナ*：1式

地上デジタルTV (12セグ) 用

フィルムアンテナ*：1式

miniB-CASカード：1

取付キット*：1式

コード類*：1式

ハンズフリー用マイク：1

取扱説明書：1

取付説明書：1

保証書：1

*接続・取り付け部品の詳細につきましては、『取付説明書』をご覧ください。

商標・著作権など

- ・本製品は、電気通信事業法に基づく設計認証を取得しています。



□D12-0023001

- ・本機内蔵の通信モジュールは、電波法に基づく設計認証を取得した特定無線設備（FC6000S）を使用しています。
FC6000S



□005WWDA0428

- ・ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



- ・本機は、ロヴィコーポレーションの米国特許および他の知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。
- ・Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・本製品は、米国Microsoft Corporationが所有する技術を使用しています。また、米国Microsoft Licensing Inc.の許可を得ずに使用または頒布できません。
- ・Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・MP3とは「MPEG Audio Layer 3」の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送*で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送*で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ<http://www.mp3licensing.com>をご覧ください。*営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

- ・Android、Google PlayはGoogle Inc.の商標です。
- ・iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・iPod、iPod classic、iPod nano、および iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

Made for




iPod



iPhone

- ・「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれiPodあるいはiPhone専用接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリをiPodあるいはiPhoneと使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- ・LightningはApple Inc.の商標です。
- ・Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有者が所有する財産です。



- ・ はDVDフォーマットロゴライセンシング(株)の商標です。

- HDMIとHDMI High-Definition Multimedia Interfaceという用語、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国その他の国々における商標または登録商標です。

HDMI

- MHL、MHLロゴおよびMobile High-Definition Linkという用語は、MHL, LLCの米国および他の国々における商標または登録商標です。
- 本製品に収録されたデータ及びプログラムの著作権は、弊社及び弊社に対し著作権に基づく権利を許諾した第三者に帰属しております。お客様は、いかなる形式においてもこれらのデータ及びプログラムの全部または一部を複製、改変、解析などすることはできません。
- 本製品の一部分にIndependent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- MirrorLink Certified™、Design Only™の認証ロゴ、MirrorLink™、および、MirrorLink™のロゴは、Car Connectivity Consortium LLCの認証マークおよび商標です。無断使用は固く禁じられています。

• libjpeg

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group

• libpng

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

This code is released under the libpng license.

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.5.0, January 6, 2011, are Copyright (c) 2004, 2006-2010 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors:

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31)" and "pngw.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennp at users.sourceforge.net
January 6, 2011

• libmng

COPYRIGHT NOTICE:

Copyright (c) 2000-2007 Gerard Juyn (gerard@libmng.com)
[You may insert additional notices after this sentence if you modify this source]

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Gerard Juyn
Glenn Randers-Pehrson

The MNG Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the MNG Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the MNG and JNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment would be highly appreciated.

Parts of this software have been adapted from the libpng package. Although this library supports all features from the PNG specification (as MNG descends from it) it does not require the libpng package. It does require the zlib library and optionally the IJG jpeg library, and/or the "little-cms" library by Marti Maria (depending on the inclusion of support for JNG and Full-Color-Management respectively).

This library's function is primarily to read and display MNG animations. It is not meant as a full-featured image-editing component! It does however offer creation and editing functionality at the chunk level.
(future modifications may include some more support for creation and/or editing)

● libxml2

Except where otherwise noted in the source code (e.g. the files hash.c, list.c and the trio files, which are covered by a similar licence but with different Copyright notices) all the files are:

Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is fur-nished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE DANIEL VELLARD BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of Daniel Veillard shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other deal-ings in this Software without prior written authorization from him.

hash.c: chained hash tables

Reference: Your favorite introductory book on algorithms

Copyright (C) 2000 Bjorn Reese and Daniel Veillard.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE AUTHORS AND CONTRIBUTORS ACCEPT NO RESPONSIBILITY IN ANY CONCEIVABLE MANNER.

Author: brees@users.sourceforge.net

list.c: lists handling implementation

Copyright (C) 2000 Gary Pennington and Daniel Veillard.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE AUTHORS AND CONTRIBUTORS ACCEPT NO RESPONSIBILITY IN ANY CONCEIVABLE MANNER.

Author: Gary.Pennington@uk.sun.com

trio files

Copyright (C) 1998 Bjorn Reese and Daniel Stenberg.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE AUTHORS AND CONTRIBUTORS ACCEPT NO RESPONSIBILITY IN ANY CONCEIVABLE MANNER.

● Simple ECMAScript Engine

The SEE library source is released under what is commonly called a "BSD-style" licence:

Copyright (c) 2003, 2004, 2005, 2006, 2007
David Leonard. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of David Leonard nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The separate 'dtoa.c' file is separately licenced, thus:

The author of this software is David M. Gay.

Copyright (c) 1991, 2000 by Lucent Technologies.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.

THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, NEITHER THE AUTHOR NOR LUCENT MAKES ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.

● giflib

The GIFLIB distribution is Copyright (c) 1997 Eric S. Raymond

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

● sha1, sha2

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

● OpenSSL

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSL.eay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

● SSLeay

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and noncommercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the PC4, tTSA, lhaSt, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word "cryptographic" can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).



4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publicly available version or derivative of this code cannot be changed, i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence]

- その他、製品名などの固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
- お客様が録音（録画）したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 弊社は、本製品に収録されたデータなどが完全・正確であること、及び本製品がお客様の特定目的へ合致することを保証するものではありません。
- 本機は日本国内専用です。GPSの測位範囲が異なる外国ではご使用頂けません。
- 本製品の仕様及び外観は、改善のため予告なく変更する場合があります。また、取扱説明書の内容と実物が異なることがあります。その場合における本製品の改造、またはお取り換えのご要望には応じかねます。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。

また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■ カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111** 【一般電話】 **044-572-8101**

ファックス **044-572-8103**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかをご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付窓口

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

コーパイオニア

電話  **0120-5-81028** 【一般電話】 **044-572-8100**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair/>

※家庭用オーディオ／ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受けております

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話  **0120-5-81095** 【一般電話】 **044-572-8107**

ファックス  **0120-5-81096**

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.047

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2013
< KFWZ13H > < CRA4632-A >